



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラク：日・イラク関係（門司大使のマーリキー首相への離任表敬）（7月9日現地報道）

7月9日に行った駐イラク門司大使のマーリキー首相への離任表敬と、それに続く同大使とダッバーグ政府報道官との共同記者会見の様子が、9日夕方から10日にかけて、現地イラキーヤ・テレビのニュース番組で繰り返し報じられた。また、10日付現地主要紙でも報じられた。

概要は以下の通り。

1. 駐イラク門司大使の離任表敬訪問を受けたマーリキー首相は、イラク政府としてはすべての分野、中でも経済、商業、投資分野における日本との関係強化に関心があることを強調した。また、マーリキー首相はイラク政府として日本企業に信頼感を抱いていることを強調した上で、日本企業による対イラク投資や、イラク復興プロジェクトへのより積極的な参画を求めた。また、イラク治安部隊による（民兵等の掃討作戦の）成功のためイラクの治安が改善されていること、イラク治安部隊の能力にかんがみ、今やイラクのどこにおいても（多国籍軍側から）治安維持権限の移譲を受ける用意が出来ていることを指摘した。イラクの国民融和に関しても、政治、安全保障面等で進展を見せており、現在、政府はこの国民融和の流れを経済面においても反映させるよう努力していると述べた。
2. これに対し、門司大使は、日本はイラクの復興や国民融和への支援、対イラク投資の強化等に引き続き勤めていく用意があると述べると共に、在任中にイラク側から差し伸べられた便宜に謝意を表した。
3. 表敬訪問後、引き続きダッバーグ政府報道官と門司大使の共同記者会見が行われ、ダッバーグ政府報道官は、両国は日本によるイラク復興のための種々協力を通じ、両国間の関係をより強固なものとしたいとの希望を共有している、日本は友好的な国であり、イラクは日本企業によるイラクにおける活動強化を強く望んでいると述べた。
4. 門司大使はイラクの任期は16ヶ月であったが、その間、マーリキー首相はハーシミー副大統領等の要人の訪日の実現し、イラクの治安情勢が大きく改善したと述べた。